

特集2

秋田市大森山動物園

応援会

みんなで
大森山動物園を
盛り上げよう!

大森山動物園応援会発足

この度、大森山動物園を応援して下さる応援会が立ち上がりました。様々な分野でご活躍される方、動物園が大好きな方で結成された市民有志の会です。三浦会長からメッセージを頂戴いたしましたので、お届けいたします。

ボランティアガイドさん、園内花壇づくりのガーデンボランティアさん、そして今回立ち上がった応援会など、動物園は本当に多くの市民の皆さんに支えられていることに、心から感謝いたします。

入園者だけでなく、市全体に対し、動物園活動を通じて恩返しができるように、これからも常にチャレンジし続けたいと思います。



ミルヴェ館で開催された応援会総会



応援会ロゴマーク



パンダ来園の要望書を秋田市長へ提出

経過と今後の展望

応援会長 三浦 亮
(前秋田大学 学長)

秋田市にある動物園は60年の歴史を持ち、現在の広大な大森山に移転してからも既に38年、市民の憩いと安らぎの場として高い支持を受けてきました。

2009年に大森山全体を含めた自然動物公園の再整備構想策定のため、井上正鉄 秋田大学教授を委員長とする会議が立ち上げられ、答申された構想案は、翌2010年に秋田市議会で承認されています。策定委員会の議論の中で、市民が気楽に参加し、動物園活性化に関与出来る応援会があればいいな、という話題がでたということです。私自身にこの話があったのは、2009年暮れのことでした。私は市立動物園が千秋公園内にあったところからのファンです。また、2006年に秋田市と秋田大学の共催で「地方の動物園を語る」という市民公開シンポジウムが開かれ、シンポジストとして小宮輝之 上野動物園長、小管正夫 旭山動物園長の参加もあってか、市民の高い関心を呼び、大盛会でした。これも私が今回の応援会立ち上げに積極的に関与してきた一因であったといえます。以後、応援会について、有志の集まりで企画が

練られ、小松園長をはじめとする動物園側の全面的なご協力のもとで準備が行われてきました。

応援会の構想は、2010年8月8日、動物園開園60周年の記念式典の際公表され、実際の発足は、本年3月の東日本大震災の余波で予定より遅れましたが、7月30日に総会が開かれて正式にスタートしました。応援会の活動としては、動物園を盛り上げるための企画提案、動物園が行う、観光、教育福祉、環境事業への支援、資金援助(募金活動)等を考えています。また、市民が誰でも気楽に参加出来る応援会とはいっても、適切な運営、会費・会計の透明性などを担保するための組織と規定は最低限必要であり、応援会会則を定めて、総会で承認されました。

現在応援会には、一般市民、ボランティア、企業、大学など、各分野の方々に参加しております。今後もさらに、老若男女を問わず、個人、団体参加者を募り、楽しみながら動物園の充実、発展のお手伝いをしていきたいと考えています。

今、最も話題となっているのは、準備委員会の時、副会長を中心に持ち上がった、「中国からパンダを大森山動物園に呼ぼう」という話です。夢のような、との声もありますが、既に応援会として先日、秋田市長へ要望書を提出しました。秋田市民に限らず、県民、頑張っている東北各地、そして日本中から来園者がますます多くなることを目指して、活動を進めていこうとします。

特集3

親と子のふれあい写生大会



大森山動物園では、情操教育の一環として、動物の生態を観察してもらうとともに、動物や自然に対する愛護の心や豊かな感性を育てることを目的に、「親と子のふれあい写生大会」を毎年開催しています。今年で34回目の開催となったとても息の長いイベントで、もしかすると親子2代で参加した経験がある方もいるのではないのでしょうか。毎年500点以上の作品が提出され、秋田市民にしっかりと根付いた夏休みイベントといっても良いかもしれません。

この大会は、たくさんの企業や団体から協力をいただきながら実施されておりますが、その中でも秋田市の小・中学校の図工・美術の先生方で構成されている秋田市造形教育研究会の先生方には、園内での巡回指導のほか、作品の審査や表彰式での講評など、毎年大変なご苦労をお掛けしております。今回は、その中の一員である飯島小学校の小松文子先生から投稿していただきました。

元気いっぱいの子どもの絵に寄せて 飯島小学校 教諭 小松 文子

動物を描きつくった子どもたちの作品が大好きです。巡回、審査をしている市内小中学校の図工・美術の担当教師もみな同じ思いです。

今年の写生会の子どもの題名、「のんびりさいこう!」「優雅なイヌワシ」「森のけん者」・・・実に魅力的です。本物の動物とお話したり友達になったりできそうです。粘土でできた動物が、魔法にかかったかのように動き出しそうです。子どもたちの動物への思い、作品への強い思いが伝わってきます。

写生会当日、作品を生み出す折に見かけた、すてきな二組の親子を紹介します。一組は、まだ真っ白な画用紙を抱えた親子です。イヌワシのオリの側の階段付近で、「あの羽根はこんなに大きく広がるんだよ。」「あの目がかっこいいからこっち向きに描くんだ。」と興奮しながら話す子どもの声に、じゅっくりと耳を傾けるお母さん

がいました。もう一組です。完成間近だったと思うのですが、隣り合って座り膝の上に絵を立てかけ、親子2人で描いた線を大切にしながら、「ここはこうだったね。」「この色がここにあったね。」と語り合っているのです。線一つ一つ、色の一つ一つを紡いでいき、作品を仕上げていくのは、親子の愛情そのものだなと感じました。ほのぼのとして、そして感動的でした。まさしく「親と子のふれあい」を冠にする写生会にふさわしいひとこまでした。この両日は動物園のあちこちで、こんな親子がたくさんいらしたことでしょう。夏休みのゆったりした時間だからこそ、生まれたドラマです。

作品をつくり出す原点は、対象を大切に思う心であり、温かい愛情に支えられているからなのだと改めて感じた二日間でした。

過去の参加状況

平成23年度の記録

〈開催日数2日間/天候:2日間とも晴れ〉
総受付数 755名
提出数 653点(絵画643点・立体10点)
入園者数 4,328名

平成22年度の記録

〈開催日数2日間/天候:2日とも曇り〉
総受付数 645名
提出数 538点(絵画522点・立体16点)
入園者数 2,855名(2日間の合計)

平成21年度の記録

〈開催日数3日間/天候:曇り時々雨〉
総受付数 817名
提出数 697点(絵画680点・立体17点)
入園者数 3,500名(3日間の合計)

平成20年度の記録

〈開催日数1日間/天候:雨〉
総受付数 252名
提出数 224点(絵画217点・立体7点)
入園者数 284名



ZOOギャラリー

優秀作品は大森山動物園ふれあいランド内のZOOギャラリーにパネル化され常設展示されます。